



## はじめに

窓をあけると、木々の香りが教室に流れてきます。

まだ誰もいない教室をまわり、一つずつ窓をあけて新鮮な空気を取り込んでいきます。間もなくやって来る、元気な子どもたちの顔を思い浮かべながら……。

私たちの学校、暁星国際学園は、房総半島のちようど中ほど、J R木更津駅から自動車で二十分ぐらいの山の中にあります。

山の中といっても傾斜はゆるやかで、現在は学校の前まで舗装路が敷かれ、ここ二十年ぐらいのあいだに東京湾アクアラインや館山道などの高速道路が整備されたために交通の便は増し、東京駅から自動車で一時間ほどで来ることが出来ます。近隣には「かずさアカデミアパーク」という学術研究都市があり、そこではホテルオークラも営業しています。

暁星国際学園は、いまからちようど三十年前に全寮制男子高校として開学した、比較的新しい学

校です。建設候補地として最初にこの地を訪れたころは、このへん一帯は文字通り「山の中」であり、街道から田んぼの畝づたいにゴム長をはいて、苦勞して敷地までたどりついたものでした。

それまで、私は長らく東京・九段にある暁星学園の理事長をつとめていました。

しかし、やがて五十歳を迎えるころ、時代が必要としている新たな学校をつくりたいという思いが私の中に芽生えました。

すでに社会的地位も財産も、十二分のものを築いたのに、どうしてそんな苦勞を伴い危険なことを……、とまわりは思ったことでしよう。

私はカトリックの神父でもあります。

戦前に小学校を出てカトリックの修道院に入った私は、二十歳のときに誓願を立てました。つまり、家庭も財産も持たず、キリストの教えに仕えることに生涯を捧げることが誓ったのです。

ですから、私には犠牲にする家族がありません。収入は生活のための最低限のものをいただき、その多くを学校や生徒たちのために使ってきましたので、失う財産も実はありませんでした。

非凡に生きることが私の使命であり、神との約束であることを、改めて思いました。

私たちの学園は男子高校としてスタートし、この三十年のあいだに、中学を設け、やがてそれぞれを共学とし、小学校を新設し、現在はさらに幼稚園を二つ持つまでにいたりしました。

カトリックの精神をベースに、やさしさと情熱を持ち、これからの時代を強く生きていくことのできる子どもたちを育てていきたい。

そうした思いや実践の、軌跡と現在の姿をご覧いただきたいと思えます。

教育はいつの時代にも世の中の最大の関心事項の一つです。

「これから生きる子どもたち」を育てることに携わるすべての方々にとって、本書が多くの提案を含み、またヒントを提供する一冊となることを願っています。

二〇〇八年（平成二十年）十月 田川 茂